

栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン

- 平成16年度教育課程実施状況調査の結果を踏まえて -

【中学校・英語科】

平成17年5月

栃木県総合教育センター

本センターでは、平成16年7月、県内の公立小・中学校（小144校、中114校）を対象として、教育課程実施状況調査を実施しました。調査にあたっては、国が平成15年度に実施した同調査の調査票（ペーパーテスト及び質問紙）を複製使用し、小学校では第6学年を対象に第5学年段階の内容の調査を、中学校では第3学年を対象に第2学年段階の内容の調査を行いました。

今年度、調査結果及び調査結果を踏まえた学習指導の充実・改善を図るためのポイントを教科ごとにまとめ、「栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン」シリーズとして、3回に分けて発行する予定です。各学校でご活用いただき、「確かな学力」を育むための学習指導の充実・改善にお役立てください。

1 英語科の調査結果

調査結果の主な特色

< ペーパーテスト調査 >

本県の通過率の平均は、全国の通過率の平均とほぼ同程度であると考えられる。
 領域ごとでは、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」のいずれについても、本県は、全国とほぼ同程度であると考えられる。
 しかし、「書くこと」では、本県の通過率の平均は 44.9%で、全国の通過率の平均を5%以上、下回っている問題が8問ある。あるトピックについてまとまりのある内容の文章を書いたり、英語の例文を参考にして日本語の文を英語の文に書き換えたりする問題の通過率は低い。一方、無解答率は高い。
 評価の観点ごとでは、「表現の能力」、「理解の能力」、「言語や文化についての知識・理解」のいずれについても、本県は全国とほぼ同程度であると考えられる。

< 質問紙調査 >

本県及び全国のいずれの結果においても、「英語の勉強は大切だ」について、「そう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒は約8割、一方、「英語の勉強が好きだ」については、約5割となっている。
 「英語の授業がどの程度分かりますか」について、「よく分かる」あるいは「だいたい分かる」と回答した生徒は、本県では 42.5%で、全国より約5%低くなっている。

ペーパーテスト調査の結果から

通過率の平均の比較

本県の通過率	全国の通過率	本県と全国との差	設定通過率	本県と設定通過率との差
63.3%	63.2%	0.1%	65.5%	-2.2%

- * 通過率は、問題ごとの正答、準正答の合計を解答者数の合計で割った数値。
- * 通過率の平均は、3種類の問題冊子の各問いの通過率の合計を、総問題数(81)で割った数値。
- * 設定通過率は、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけ、学習指導要領作成時に想定された学習活動が行われた場合、個々の問題ごとに正答、準正答の割合の合計である通過率がどの程度になるかを示した数値。

領域ごとの通過率の平均の比較

領域 \ 通過率	本県の通過率	全国の通過率	本県と全国との差	設定通過率	本県と設定通過率との差
聞くこと	73.3%	71.1%	2.2%	72.3%	1.0%
読むこと	66.2%	66.0%	0.2%	65.3%	0.9%
書くこと	44.9%	47.8%	-2.9%	56.0%	-11.1%

本県の通過率が全国の通過率を5%以上、上回っているあるいは下回っている、領域ごとの問題数

領域 \ 問題数	問題数	上回っている問題数	下回っている問題数
聞くこと	30	5	0
読むこと	30	2	0
書くこと	21	2	8

評価の観点ごとの通過率の平均の比較

領域 \ 通過率	本県の通過率	全国の通過率	本県と全国との差	設定通過率	本県と設定通過率との差
表現の能力	44.9%	47.8%	-2.9%	56.0%	-11.1%
理解の能力	69.7%	68.6%	1.1%	68.8%	0.9%
言語や文化に対する知識・理解	58.3%	57.5%	0.8%	62.4%	-4.1%

前回と同一問題（25問）の通過率の平均の比較

本県の通過率	全国の通過率	前回の全国の通過率	設定通過率
62.0%	63.2%	62.1%	65.4%

領域 \ 問題数	問題数	本県の通過率が前回の全国の通過率を5%以上、上回っている問題数	本県の通過率が前回の全国の通過率を5%以上、下回っている問題数
聞くこと	9	1	0
読むこと	9	1	2
書くこと	7	1	0

本県の通過率が全国の通過率を 10%以上、上回った問題

本県の通過率	58.4%	全国の通過率	45.8%	差	12.6%
--------	-------	--------	-------	---	-------

領域：聞くこと / 評価の観点：理解の能力

(テープ問題)

英語の話しかけを聞き，それに対する応答として最も適切なものを 1～4 の中から一つ選んで，その番号を の中に書きなさい。話しかけは 2 回繰り返して言います。

<学校で友だちが>

- | | |
|------------------|-------|
| 1 Yes, please. | 58.4% |
| 2 Yes, I will. | 17.6% |
| 3 Yes, you will. | 11.0% |
| 4 Yes, let's. | 12.7% |

[スクリプト]

M: You have a lot of books in your hands. Shall I help you?

正答

本県の通過率	38.0%	全国の通過率	26.1%	差	11.9%
--------	-------	--------	-------	---	-------

領域：書くこと / 評価の観点：表現の能力、言語や文化に対する知識・理解

次の対話を完成させるために[]内に与えられた語句を並べかえて，()内に入る文を作り，それを の中に書きなさい。ただし，文頭に来るものも小文字になっています。

A: How long were you in Kyoto, Mr. Smith?

B: ().

[week I a there stayed for]

正答

本県の通過率が全国の通過率を 10% 以上、下回った問題

本県の通過率	49.9%	全国の通過率	68.1%	差	-18.2%
--------	-------	--------	-------	---	--------

領域：書くこと / 評価の観点：表現の能力、言語や文化に対する知識・理解

次の対話を完成させるために[]内に与えられた語句を並べかえて、()内に入る文を作り、それを の中に書きなさい。

A: Will you come to my house next Sunday?

B: ().

[have help to my mother I]

正答

本県の通過率	49.3%	全国の通過率	63.0%	差	-13.7%
--------	-------	--------	-------	---	--------

領域：書くこと / 評価の観点：表現の能力

次のページの例を参考にして、山本先生を紹介する三つの英文を の中の (1) ~ (3)に書きなさい。

* 問題冊子の次のページの例には、マイク(Mike) の紹介文として、He comes to school by bus. という英文が示されている。

メモ 英語の山本先生について

(1) 通勤：徒歩

紹介文 Mr. Yamamoto is our English teacher.

(1) 正答：内容的にも文法的にも正しく書けているもの。

例) He walks to school. / He comes to school on foot. /
He goes to school on foot.

準正答：内容的には理解できるが、文法や綴りの誤りがあるもの。

例) He walk to school. / He comes to school by foot.
He walks to scool.

本県の通過率 49.3%の内訳： 正答 5.6%、準正答 43.7%

前回との同一問題のうち、本県の通過率が前回の全国の通過率を最も上回った問題

本県の 通過率	38.0%	全国の 通過率	26.1%	前回の全国 の通過率	30.0%
------------	-------	------------	-------	---------------	-------

本県の通過率が全国の通過率を 10% 以上、上回った問題と同一（P 3 参照）

前回との同一問題のうち、本県の通過率が前回の全国の通過率を最も下回った問題

本県の 通過率	37.8%	全国の 通過率	41.9%	前回の全国 の通過率	45.3%
------------	-------	------------	-------	---------------	-------

領域：読むこと / 評価の観点：理解の能力

次の英文を読んで、あとの質問に答えなさい。

August 1, 2003

Dear Helen,

How are you? Thank you for your letter. Your story about the camping trip was very interesting. I am staying at a hotel near Lake Kawaguchi with my family. We are enjoying our summer vacation. It is very cool in the morning here.

Lake Kawaguchi is very beautiful. Today my father and I rented a boat and went fishing. We caught some fish. We both really enjoyed it.

We saw Mt. Fuji from the lake. It is the highest mountain in Japan. It is also the most beautiful. We are going to climb it this summer. (以下省略)

Your friend,

Sakura

(1) さくらについてあてはまるものを、下の 1～4 の中から一つ選んで、その番号を の中に書きなさい。

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1 さくらは家族と湖でキャンプをしています。 | 39.1% |
| 2 さくらは父と釣りに出かけましたが釣れませんでした。 | 16.8% |
| 3 さくらはこの夏富士山に登るつもりでいます。 | 37.8% |
| 4 さくらは写真をとるのが上手で家族の写真をとりました。 | 5.2% |

正答

生徒質問紙調査(意識調査)の結果から

- * 数値は、質問に対して回答した生徒の割合を表す。
 * 本県の結果は、平成16年7月に3年生で実施したもの。
 全国の結果は、平成16年2月に2年生で実施したもの。

英語の勉強に対する意識		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	分からない
英語の勉強が好きだ。	本県	24.0%	23.9%	21.6%	26.5%	3.4%
	全国	25.6%	25.4%	19.6%	25.5%	3.5%
英語の勉強は大切だ。	本県	54.6%	25.7%	7.2%	8.9%	2.8%
	全国	58.1%	24.7%	6.5%	7.8%	2.4%
ふだんの生活や社会に出て役立つよう、英語を勉強したい。	本県	36.1%	25.3%	14.8%	14.3%	8.8%
	全国	37.3%	25.4%	14.3%	13.8%	8.6%

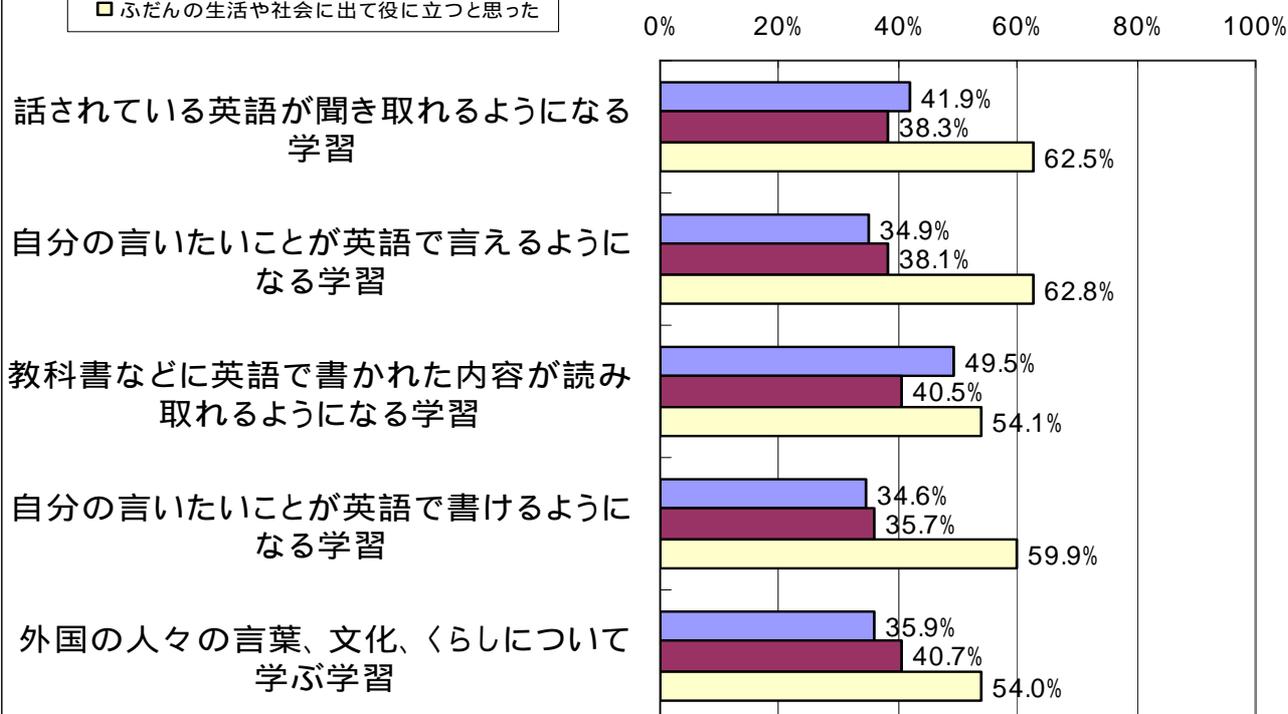
英語の勉強の理解度		よく分かる	だいたい分かる	分かることと分からないことが半分くらいずつある	分からないことが多い	ほとんど分からない
英語の授業がどの程度分かりますか。	本県	15.4%	27.1%	27.3%	18.2%	10.3%
	全国	16.5%	30.8%	24.7%	16.9%	9.3%

関心・意欲・態度		楽しい	どちらかといえば楽しい	どちらかといえば楽しくない	楽しくない
授業中に英語を聞いたり、話したりすることは楽しいですか。	本県	22.1%	31.2%	22.3%	23.8%
	全国	20.9%	32.7%	23.5%	22.2%
		英語で受け答えする	日本語で受け答えする	だまっている	その場からにげる
外国人が英語で話しかけてきたら、あなたはどうしますか。	本県	56.8%	25.0%	6.1%	11.2%
	全国	53.8%	27.6%	7.8%	9.7%

英語科で学習した内容についての意識

- よく分かった
- 好きだった
- ふだんの生活や社会に出て役に立つと思った

勉強した内容についてどのように感じたか



(生徒質問紙調査の結果より)

生徒質問紙調査とペーパーテストの結果との関連

英語の勉強が、「好きだ」、「大切だ」、「役に立つ」などと思っている生徒は、ペーパーテスト調査の正答率が高い傾向がみられる。

* 数値は、ペーパーテスト(英語科)の平均正答率(%)を表す。

質問	選択肢			
	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
英語の勉強が好きだ。	69.2	66.0	60.7	55.4
英語の勉強は大切だ。	66.7	60.4	55.1	51.2
英語を勉強すれば、私のふだんの生活や社会に出て役立つ。	67.3	63.3	57.2	52.9
英語を勉強すれば、私は、英語で自分の考えや気持ちを伝えることができるようになる。	68.0	63.8	57.8	53.5

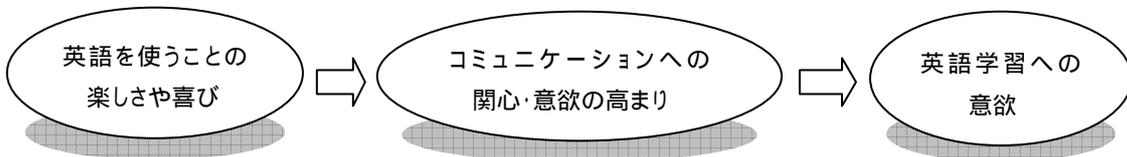
2 英語科の学習指導の改善プラン

今回は、生徒及び教師への質問紙調査結果から明らかになった次の課題について、生徒の英語学習への興味・関心を高めるための学習指導改善のポイントを示します。

質問紙調査結果からみえた課題

- ・各領域（「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」）の学習について、「好きだった」と回答した生徒は、いずれも約4割、「よく分かった」と回答した生徒は、約3割から5割という状況です。
- ・多くの時間で、積極的に英語を使って授業を行っている教師は、約2割という状況です。

生徒を英語好きにさせ、意欲的に学習に取り組むようにさせるには、英語を使うことの楽しさを実感させ、コミュニケーションへの関心・意欲を高めることが必要です。



生徒のコミュニケーションへの関心・意欲を高める授業を展開しましょう

生徒のコミュニケーションへの関心・意欲を高めるために、授業で行う言語活動を工夫したり、教師が積極的に英語を使ったりして、英語を使う喜びや英語のよさを生徒に実感させることが大切です。

1 互いの気持ちや考えを伝え合う活動を意図的、継続的に授業に取り入れましょう

授業で行う言語活動では、生徒はどんな内容をやりとりしているのでしょうか。学習指導要領には、言語材料についての理解や練習を行う活動と、実際に言語を使用してコミュニケーションを図る活動とのバランスを配慮しつつ指導するよう示されています。

特に、コミュニケーションを図る活動では、生徒が「互いの気持ちや考えを伝え合う」活動となるよう工夫することが大切です。



言語活動は、「**言語材料の理解や練習を行う活動**」と「**コミュニケーションを図る活動**」とのバランスが大切ね。

コミュニケーションを図る活動では、生徒が「**互いの気持ちや考えを伝え合う**」ことができるようにすることが大切ね。

コミュニケーションを図る活動が、いわゆるゲーム的な活動で、伝え合う内容も教師が一方的に与えた情報（架空の情報）や既知の情報が中心では、真のコミュニケーションとは言えず、生徒のコミュニケーションへの関心・意欲は高まりません。

今回、ペーパーテスト調査の結果からも、生徒のコミュニケーションへの関心・意欲について、課題がみえました。

以下は、平成16年度教育課程実施状況調査に出題された問題とその結果です。

問題

「私の好きな季節」というテーマでスピーチをすることになりました。そのスピーチの原稿を I'm going to talk about my favorite season. に続けて、英語でまとめた内容の文章を3文以上できるだけたくさん書きなさい。ただし、I'm going to ... season. の文は3文中に含めません。

結果

正答（4文以上書いてある）	8.9%
正答（3文書いてある）	10.3%
誤答（4文以上書いてあるが、つながりがよくないもの）	11.5%
誤答（3文書いてあるが、つながりがよくないもの）	17.9%
誤答（2文以下しか書いていないもの）	12.0%
無解答	37.6%

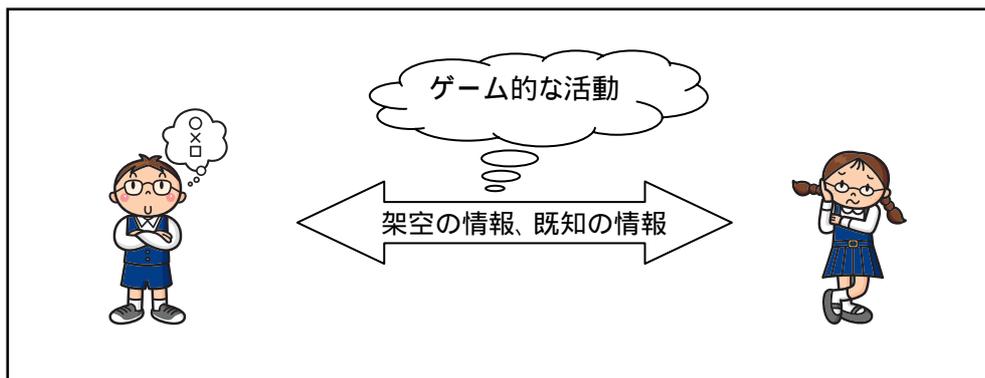
この結果から、いくつかの課題がみえますが、今回注目したいのは、無解答率の高さです。この問題で無解答率が高いのは、語彙や文法等についての課題だけではなく、書くことを通して自分自身を表現する（自己表現）ことへの関心・意欲が低いことにも原因があると考えられます。生徒質問紙調査の結果においても、6割を超える生徒が、自分の伝えたいことを英語で書くことが好きではない、と回答しています。



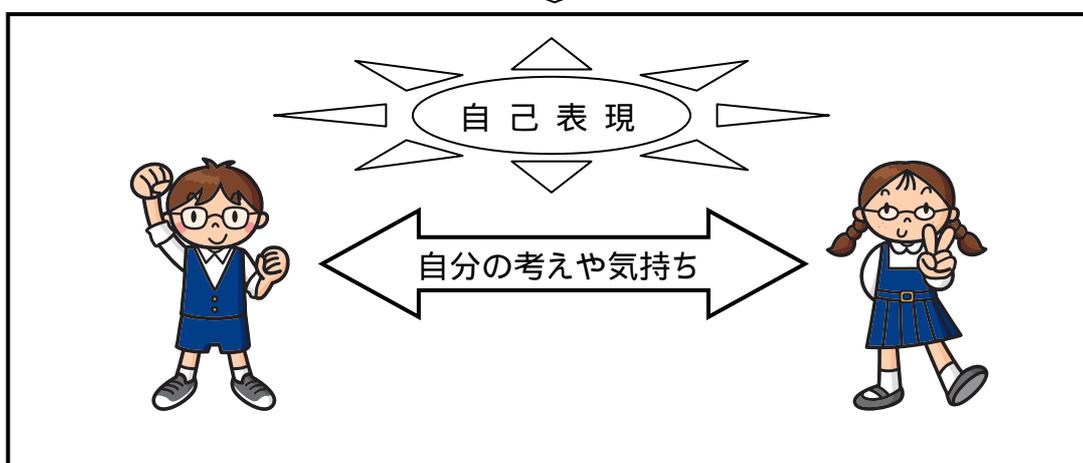
英文を書くことは好きじゃない……。

約6割の生徒の回答

生徒は、自己表現することや未知の情報をやりとりすることを通して、英語を使う楽しさや英語が通じた喜びを実感し、コミュニケーションへの関心・意欲を高めます。そのためには、「互いの気持ちや考えを伝え合う活動」を、意図的、継続的に授業に取り入れることが大切です。



生徒のコミュニケーションへの関心・意欲の高まりは・・・？



生徒のコミュニケーションへの関心・意欲は高まる！！！！

活動例

この活動例は、1年生で一般動詞の疑問文を扱う際の、言語材料についての理解や練習を行う活動とコミュニケーションを図る活動の例です。コミュニケーションを図る活動では、質問された生徒に Yes, I do. / No, I don't. と答えさせるだけでなく、自分の考えや気持ちなどを付け加えて応答させるようにし、自己表現する喜びを実感させるようにします。

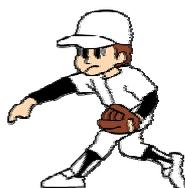
理解や練習を行う活動（対話例）

A: Do you like sports?
 B: Yes, I do.
 (No, I don't.)



コミュニケーションを図る活動（対話例）

A: Do you like sports?
 B: Yes, I do. I like baseball.
 (No, I don't. But I like music.)



コミュニケーションを図る活動では、生徒の実態に応じて、対話例 を行った後、下記の対話例 のような少し長めの対話例を与え、さらに自己表現させることもできます。ここでは、言い返しや会話でよく使われる表現なども使わせ、生徒にコミュニケーションの楽しさを味わわせることができます。

コミュニケーションを図る活動（対話例）

A: Hi, B.
 B: Hi, A.
 A: Do you like sports?
 B: Yes, I do. I like baseball. (No, I don't. But I like music.)
 A: Oh, you like baseball. (Oh, you like music.)
 B: That's right.
I like Hideki Matsui. (I like Ayumi Hamasaki.)
 A: I see.
 B: Do you like sports?

2 教師が積極的に英語を使って授業を行いましょう

英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲を生徒にもたせるために、生徒にとっていちばん身近なモデルとなる教師が、積極的に英語を使っていきたいものです。そうすることで、「自分も英語を使ってみたいな」という気持ちを、生徒にもたせることができます。



I like English.
Speaking English is fun...



積極的に英語を使って授業を行っていますよ。

約2割の教師の回答

教師質問紙調査の「積極的に英語を使って授業を行っていますか」という質問に対して、「多くの時間で実施している」と回答している教師は、約2割となっています。

(参考) 英語の授業における英語の使用状況(全国)

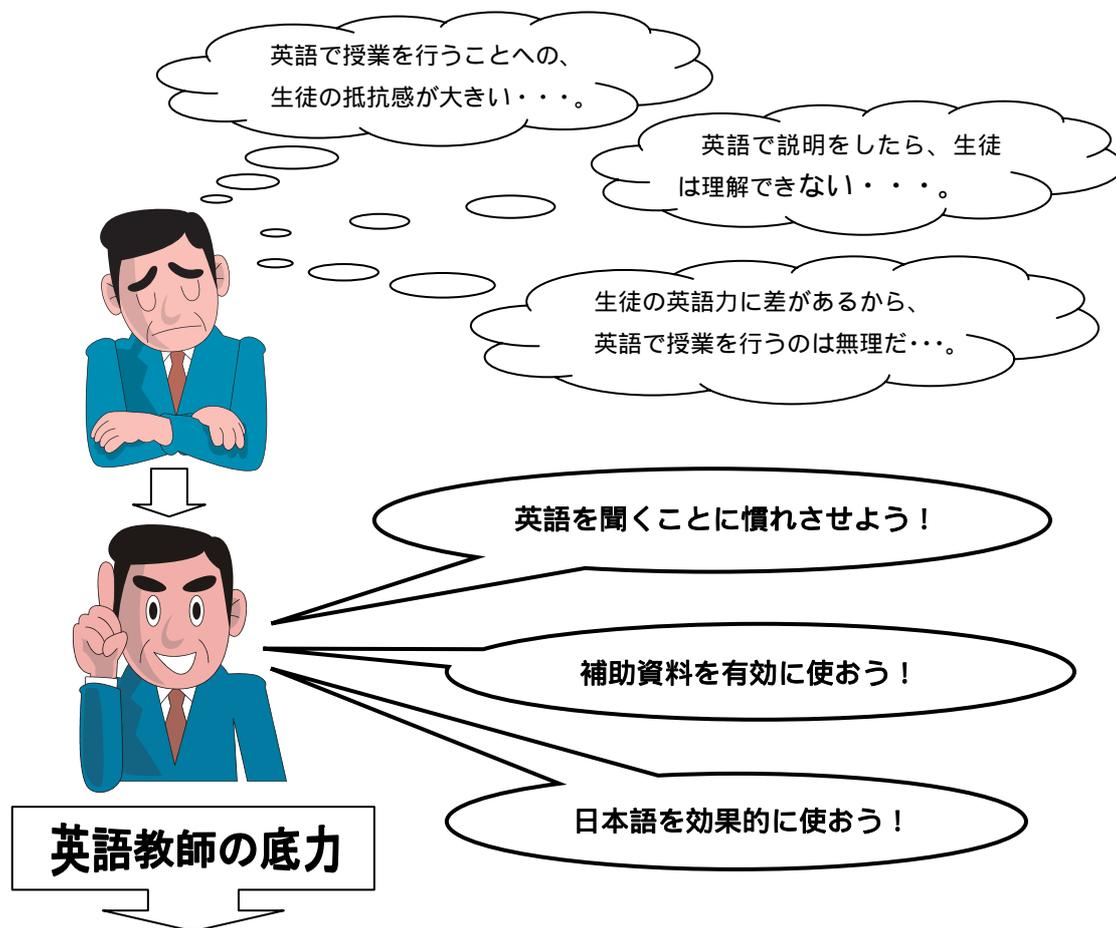
大半は英語で行っている・・・ 3.9 %
 半分以上は英語で行っている・・・ 31.1 %
 半分又はそれ以下である・・・ 64.4 %
 英語教育改善実施状況調査 (H17.2 文科省)

「英語が使える日本人」の育成のための行動計画 (H15.3 文科省)

英語の授業の大半は英語を用いて行う。

今後は、できるだけ多くの時間で、教師が積極的に英語を使って授業をしていくことが望まれます。さらに、1単位時間の授業でも、できるだけ多くの英語を使って授業をしていき、生徒にできるだけ多くの英語のシャワーを浴びせたいものです。

しかし、英語で授業を行うことについては悩みをもっている先生方もいるようです。次のように発想を転換して、積極的に英語を使って授業を行ってみてはいかがでしょうか。



英語を聞くことに慣れさせましょう。

- ・生徒が英語を聞くことに慣れていないと、教師が英語で授業を行うことに不安を感じます。Classroom English や平易な英語を繰り返し使うことによって、英語の音声に慣れさせ、英語を聞くことへの不安感や抵抗感を減らしていきましょう。

補助資料などを有効に使いましょう。

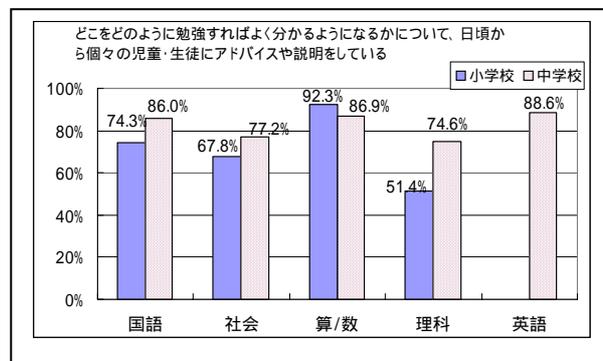
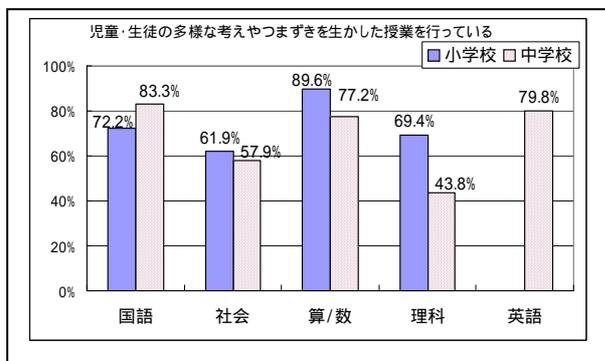
- ・教師が発する英語を、生徒が理解できないと考えられるときは、絵やポスター、実物などの提示資料を事前に準備し使用したり、ジェスチャーや言い換え、繰り返しなどをしたりするなどして、生徒の理解を促しましょう。

効果的に日本語を使いましょう。

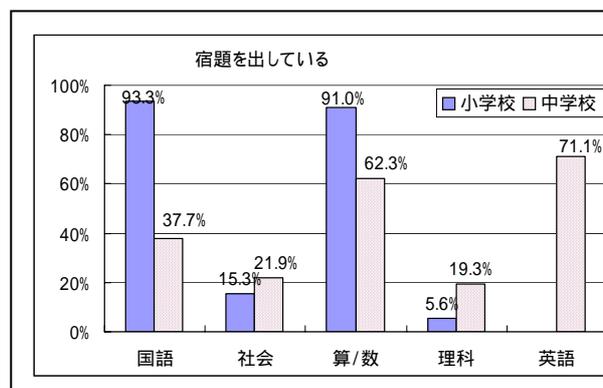
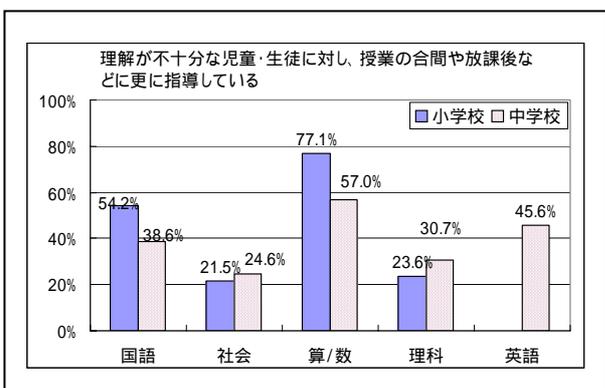
- ・生徒の様子から理解の状況を把握し、場面に応じて日本語で補足するなど、効果的に日本語を使いながら、生徒の理解を促しましょう。

教師の指導の状況

個に応じた指導



基礎・基本や学習習慣を身に付けるための取組



平成16年度 栃木県 教育課程実施状況調査の概要

- 調査実施時期： 平成16年7月1日～7月19日の期間内
- 調査方法： ペーパーテスト調査、児童生徒及び教員に対する質問紙による意識調査
- 調査対象学年： 小学校第6学年、中学校第3学年
- 調査教科： ・小学校（第5学年段階の内容）：国語、社会科、算数、理科
 ・中学校（第2学年段階の内容）：国語、社会科、数学、理科、英語
- 調査問題： ・国立教育政策研究所が平成16年2月に実施した「小学校及び中学校教育課程実施状況調査」の複製
 ＊ペーパーテスト調査については、各教科ともA、B、Cの3種類（ほぼ同程度の内容及び水準）の問題冊子を使用
- 調査学校及び児童生徒数： ・小学校：144校 約3900人
 ・中学校：114校 約3500人

調査結果等は栃木県総合教育センターのホームページ（<http://www.tochigi-c.ed.jp/>）でご覧いただけます。

栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン

- 平成16年度教育課程実施状況調査の結果を踏まえて -

【中学校・英語科】

発行 平成17年5月

栃木県総合教育センター 研究調査部

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070

TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303